

事後評価結果（令和4年度）

担 当 課：沖縄総合事務局開発建設部道路建設課
担当課長名：屋我 直樹

事業名	一般国道58号 <small>うらそえ</small> 浦添北道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけん きのわん しゅうちどまり</small> 沖縄県宜野湾市宇地泊 至： <small>おきなわけんうらそえ し みなとがわ</small> 沖縄県浦添市港川			延長	2.0km

事業概要

一般国道58号「浦添北道路」は宜野湾市宇地泊から浦添市港川に至る延長2.0kmの主要幹線道路である。沖縄本島のハシゴ道路計画（ネットワーク）において、沖縄自動車道・那覇空港自動車道、国道329号とともに南北を走る『3本の柱』として位置付けられており、沖縄本島北部及び中南部から那覇空港間の定時性・高速性を確保するとともに物流・観光の効率化を支援する道路である。

また、那覇都市圏の2環状7放射道路の一部を形成し、交通経路の分散化による慢性的な混雑緩和を図る道路である。

- 事業の目的・必要性**
- ・国道58号及び周辺道路の交通渋滞緩和、交通事故抑制、交通環境の改善等
 - ・那覇空港・那覇港等へのアクセス性の向上
 - ・地域交流及び地域活性化の促進



事業の効果等	事業期間	事業化年度	H18年度	用地着手	H20年度	供用年	(当初) -/H25	変動	1.7倍
		都市計画決定	H17年度	工事着手	H22年度	(暫定/完成)	(実績) -/H30		
	事業費	計画時	(名目値) — /175億円	実績	(名目値) — /389億円	変動	2.2倍		
		(暫定/完成)	(実質値) — /188億円	(暫定/完成)	(実質値) — /402億円				
	交通量	計画時	(H42)		実績	(R1.5)		変動	111%
	(当該路線)	(暫定/完成)	— /245百台/日		(暫定/完成)	— /272百台/日			
	旅行速度向上	(上り方面)	26.3	→	34.8 km/h	交通事故減少	191	→	135件/億台キロ
	(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次) H29年11-12月		(供用後年次) H30年11-12月	(供用前現道→供用後現道)	(供用直前年次) H28-29年		(供用後年次) R1-2年	
費用対効果	B/C	総費用	152億円		総便益	910億円		基準年	
分析結果	(当初)	6.0	事業費：144億円 維持管理費：8億円		走行時間短縮便益：807億円 走行経費減少便益：69億円 交通事故減少便益：34億円		H17年		
費用対効果	B/C	総費用	538億円		総便益	988億円		基準年	
分析結果	(事後)	1.8	事業費：525億円 維持管理費：13億円		走行時間短縮便益：919億円 走行経費減少便益：51億円 交通事故減少便益：18億円		R4年		
事業遅延によるコスト増		費用増加額	— 億円		便益減少額	— 億円			

	事業遅延の理由 —
	交通量変動の理由 近隣で大型商業施設がR1年6月に開業するなど、将来(H42)交通需要予測において見込んでいなかった開発により交通量に変動が生じたものと考えられる。
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ① 円滑なモビリティの確保 ・損失時間が削減 ・現道における平均旅行速度が向上 ② 物流効率化の支援 ・北谷町役場から那覇新港へのアクセス性が向上 ③ 国土・地域ネットワークの構築 ・北谷町役場から県庁所在地（那覇市）へのアクセス性が向上 ④ 個性ある地域の形成 ・那覇空港からアメリカンビレッジへのアクセス性が向上 ⑤ 地球環境の保全 ・CO2排出量が削減 ⑥ 生活環境の改善・保全 ・NO2、SPM排出量が削減
	その他評価すべきと判断した項目 ・那覇空港からアメリカンビレッジ間の所要時間の平均値が約19分減少（約56分→37分）。 定時性も向上（約48分～73分→約32分～43分）
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 特になし
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
	事業評価監視委員会の意見 当該事業に関しては、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないことを了承する。
	事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・近隣で大型商業施設がR1年6月に開業 ・浦添市を含む地域は国際物流拠点産業集積地域として指定 ・浦添北道路Ⅱ期線が事業化
	今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・当該道路の整備により、国道58号現道および周辺道路の渋滞が緩和し、損失時間が削減した。 ・那覇空港～アメリカンビレッジの所要時間短縮・定時性向上により、宜野湾コンベンションエリアの利用者の更なる増加や牧港補給地区跡地利用基本計画による新たな観光拠点への誘客にも期待される。 ・国道58号現道の道路の交通事故減少、安全性向上に寄与している。 ・当該道路は想定された効果が発現されているため今後の事後評価および改善の必要性はないが、いまだに現道の渋滞が著しく、事故が多いため当該事業と並行する浦添北道路Ⅱ期線を事業中である。
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・事業評価手法の見直しについては、整備目的の効果を確認していることから、見直しの必要性は無いと考える。今後同種事業の評価に際しては、ビッグデータ等を用いた詳細なデータを活用し、混雑緩和やアクセス性の向上などの「生活の質の向上」といった視点でのストック効果に留意した評価に努める。
	特記事項 特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。